



男女共同参画社会を目指して

—みんなが自分らしく暮らせる社会を—

誰もが生きいき暮らせる

男女共同参画社会について考えてみませんか



「男女共同参画シンボルマーク」
男女が手を取り合っている様子を表しています。

企画・編集

市男女共同参画推進市民会議
広報委員会

詳細

企画課 企画調整係
(市役所2階 ☎23-3331 内線 213)

男女共同参画社会とは

男女がお互いに人権を尊重し合い、家庭、地域、職場などあらゆる分野で、性別にとらわれることなく「自分らしく」個性と能力を十分に発揮でき、責任も担い合い、すべての人が生きいきと暮らせる社会のことをいいます。

市の取り組み

平成16年、市男女共同参画基本計画を策定しました。計画は平成16年～平成23年までの8年間で、主な目的は、次のとおりです。

①すべての人が互いにその人権を尊重し、社会的・文化的につくられた性差にとられないように努力すること。

②個性と能力を発揮し、責任を担い合うよう努力すること。

③男女共同参画社会の形成に向けて、行政と市民や関係団体、企業が一体となって取り組む努力をすること。

計画の推進や啓発を行うため、市内の関係機関・団体などからの推薦者と一般公募で、12名の委員による市男女共同参画推進市民会議を設置し活動しています。

今年7月には、8名の委員が登別市を訪問し、登別市男女共同参画社会づくり推進会議の委員と意見交換



悩んだ時の相談先は

●DVなどに関する相談

児童家庭課 (市役所1階⑥番窓口) ☎23-3333 内線317

●人権・DV問題などに関する相談

市民課 (市役所1階②番窓口) ☎23-3333 内線272

室蘭女性保護の会

(☎0143-24-4538)

北海道立女性相談援助センター

(☎011-666-9955)

女性の人権ホットライン【全国共通】

(詳細はP11・☎0570-070-810)

子どもの人権110番【全国共通】

(☎0120-07-110)

みんなの人権110番【全国共通】

(☎0570-003-110)

※各地域の民生委員・児童委員や人権擁護委員へもお気軽にご相談ください。

●男女共同参画社会に関する窓口

企画課企画調整係

(☎23-3333 内線213)

生涯学習推進課社会教育係

(☎23-3333 内線509)



ひとり悩んでいませんか

DV

(ドメスティックバイオレンス)とは

夫婦やパートナーなどの親密な間柄で起る暴力を一般的にDVと言います。DVは夫婦の間だけに起ると思われがちですが、実際には、高校生や大学生などの恋人同士の間でも起こっており、このような若者間で起るDVを「デートDV」と呼んでいます。

平成22年度伊達市男女共同参画セミナー 開催のお知らせ

- 日 時／12月4日(土) 午後1時30分～3時30分
- 場 所／市消防防災センター3階・教育ホール
- 内 容／講演、意見交換
- テーマ／女性の人権とDV被害
～相手を尊重する関係を築くために～
- 講 師／八代 真由美さん(弁護士・人権擁護委員)
- 参加費／無料
- 主 催／伊達市
- 企 画／伊達市男女共同参画推進市民会議
- 問い合わせ／企画課企画調整係
(市役所2階 ☎23-3331 内線213)



八代 真由美さん
プロフィール
札幌市在住。
平成14年弁護士登録。
現在、法律事務所を営
営する傍ら、道弁護士会連
連合会理事や全国人権擁護
委員連合会理事などの委
員を務める。

あなたも試してみませんか。 男女共同参画チェック！

- 家事はお母さんひとりの仕事になっている。
- 子育てはお母さんひとりの仕事になっている。
- 何かをしてもらってもお母さんに素直にありがとうと言わない。
- 娘さんに“早く嫁に行け”と言った事がある。
- 家族の行事はお父さんの意見で決まっている。
- あなたの職場でのお茶入れやコピー取りは女性社員の仕事になっている。
- あなたの職場では女性社員の呼称を“ちゃん”づけで呼んでいる。
- 何かの拍子に“女のクセに”と言った事がある。
- 無意識に男性の方が女性より偉いと思っている。

さて、あなたはチェックがいくつありましたか？
3個以上あった方は、男女共同参画について皆さんともう一度考えてみませんか？12月にセミナーが開催されますので、ぜひご参加ください。
※セミナー開催の詳細は左のとおりです。

男女共同参画社会の実現へ

「市内在住女性の経験談」

安心して子どもを
産み育てることのできる社会を

(Aさん)

25年前、産前産後の産休・育児時間を就業規定に基づき職場に要望しましたが、上司から産休は良いが1年間の育児時間の取得は考え直してほしいと言われました。理由は同僚の残業が増え、人手不足になることで、何よりも前例がないことでした。今ではこれらの行為が「パワーハラスメント」と理解できますが、当時はそれらの知識がありませんでした。私は仕事を続けることに対して不安がありました。先輩女性の応援もあり、最終的には勤務先の理解を得られ、私をはじめ後輩たちも産休を取得することができました。この制度を利用できたおかげで私は3人の子供を出産し、仕事と家庭を両立することができました。なかには会社の事情などにより制度を活用できないケースもあると思いますが、少子化が進む中、女性が安心して子どもを産み育てる環境が充実することを願っています。

※権力、人間関係における強制力。職場では、仕事上の上下関係・権利関係を不当に利用する事による嫌がらせ・いじめなどを指す言葉。

育児家事を分担協力する

「イクメン」が増えています

(Bさん)

「イクメン」という言葉が注目されているのをご存じでしょうか。最近メディアなどで取り上げられている「育児をする男性」のことです。実際に子育て世代である20代、30代の夫婦は、共働きが増えていることもあり、父親と母親が協力しながら家事や育児をしている家庭も多くなってきています。

9月12日、伊達西小学校で行われた学校大公開には、たくさんの保護者が訪れました。日曜日とあって父親の参観も目立ちました。

「仕事は忙しいですが、子どもの学校の様子も見たいと思っています」というお父さんが増え、運動会や学芸会などの行事のほか、平日の参観日や学校行事にも父親の姿が見られるようになったそうです。

「子どもの話から、日常生活の中でも食事の面倒をみたり宿題を教えたり、父親が子育てに自然にかかわっているなど感じる家庭がけっとうありますよ」という先生のお話。

子育て世代は、父親と母親が家事育児の分担協力を自然なことで受け止め、実践し始めているようです。

